

令和4年度 自己評価 及び 施設関係者評価

令和5年3月
新通こども園

- ・「自己評価」：園の教職員がつけた評価
- ・「施設関係者評価」：関係者評価委員会がつけた評価
- ・評価基準 A：よくできている B+：できている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない （○肯定的意見 ■課題）

領域	NO	評価項目	自己 評価	自己評価についての園の説明	関係者 評価	関係者評価委員会の説明
組織運営	1	特色ある園づくりを目指し、職員が協力し合う体制を作っている。	B	・援助型の保育を継続していく中で、職員間での話し合いや意識が浸透してきている。 ・援助型の保育を実践し、子どもの興味関心に即した遊びを大切にしている。 ・援助型保育、育児担当制について、年間で3施設から見学依頼に応じている。	B+	・先進的な保育方法を追求してきた施設として評価した。 ・職員の協力体制についてさらに取り組んでいただきたい。
	2	子どもや園の実態、保護者や地域の意見・要望等を踏まえて教育目標を設定し、重点化された中・短期の目標が示されている。	B	・年間計画や月間指導計画をもとに日々の保育を行うことが出来ている。 ・保護者や地域の意見や要望を今後も引き続き取り入れていく必要がある。 ・研修等を通して、全職員に理念、方針、目標の周知を図った。 ・園の全体的な計画に基づいて保育が行われている。（計画の中に保護者や地域の意見が反映されていないように感じる。	C	・月に一回のおたよりなどで行事等において計画の趣旨は理解できるが、園の意図が保護者に明確に伝わっていないことがある。 ・行事の目的と子どもの育ち、必要な経験を保護者に分かりやすく説明していただきたい。

	3	事故やトラブルに対して、組織的、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・保育中のケガに対しては組織的に迅速に対応するよう努めている。 ・ケガが起きた際の対応は、園全体で共有され、整備されている。 ・子どものケガを含む事故についての報告は全体に周知され、再発防止に努めている。	A	・保護者に対して明確に報告、伝達されており丁寧な対応である。 ・看護師が常駐しており、保護者にとっても安心できる。現在の対応の質を継続していただきたい。
	4	働き方改革、ハラスメント、職務規律を意識して、職員の勤務体制・意識の改善を図っている。	C	・職員体制や業務分担により、以前より、働き方改革は改善されてきているように感じる。 ・ハラスメントについての規定、相談窓口を明確にすることを検討している。 ・業務内容の見直しは行われているが、正規職員に求められている責任やクラス業務等、負担は軽減されていない。 ・感染症の影響もあり、職員の人手不足が顕著であった。そのため、保育者の人員が揃う日が少なかった。	C	・管理職の明確なリーダーシップにより、保育者としての倫理を確認してもらいたい。 ・一人ひとりの保育者が主体的に問題改善に取り組んでももらいたい。 ・職員研修に「子どもの最善の利益」を再考する内容を取り入れていただきたい。
	5	管理職の明確なリーダーシップのもと、保育者が生き生きと働いている。	B	・物事の決定プロセスや各種対応窓口など、職員の役割の明確化と全体への周知が必要。 ・組織の改革以降、働きやすさを感じる。 ・主幹、副園長に困りごとを相談しやすい環境になってきて、働きやすさを感じている。 ・園内での取り組みを職員全体が理解し、子どもの育ちにつながるような情報共有や研修が必要である。	B	・項目 4 の評価と同等、管理職の明確なリーダーシップにより、保育者一人ひとりが職業倫理を確認していただきたい。

	6	園の財務運営状況が適切に公開されている。	B	・ホームページに公開されている。 ・一部の職員は、把握できていない。	B	・公開された情報を職員が共有することで、コスト意識を高めていただきたい。
教育課程・保育	7	保育者は、個々の成長に向け、子どもが楽しく工夫した保育を行っている。	B	・子ども一人ひとりの成長を全体で共有する必要がある。 ・子どもの興味・関心、クラスの現状から必要な活動や環境についての話し合いに努めた。 ・全体的な計画に基づいて保育を行い、子どもの興味・関心に沿って、遊びを展開している。	A	・子どもの家庭での様子から、一人ひとりの子どもの発達過程や特性を理解し、興味・関心に即した保育が展開されていることがうかがえる。
	8	教育目標の具現化を目指し、教育課程を編成・実践・評価し教育活動の充実・改善を図っている。	C	・年間指導計画が日々の記録に活用されている。 ・子どもの姿に即して計画を立案している。 ・時間的な制限があり、振り返りや反省等の話し合いが不足していた。 ・日々の業務の煩雑さから、計画が疎かになってしまうことがある。	B	・保育記録が日々の保育の構想、カリキュラム作成につながることを踏まえ、日々の記録や子どもの姿から保育を構想していただきたい。
	9	豊かな心の育成を目指し教育活動を行っている。	B	・豊かな自然に触れることや、絵本の読み聞かせを通した活動に努めている。 ・子どもの興味から、絵本や物語の世界を遊びに取り入れたり、歌や楽器を通して音楽の楽しさを体験したりする等の保育が展開されていると思う。 ・日本の伝統文化に触れる機会を大切にしている。	A	・家庭では経験することのできない、日本の文化に触れ、自然を取り入れた保育が展開されている。 ・キャラクター等の流行にとらわれない保育は、保護者も共感している。今後も継続していただきたい。

	10	子どもは、安定した気持ちで生活し、園生活を楽しんでいる。	B	・養護と教育を一体に捉え、子ども一人ひとりの姿に即した援助から、子どもの成長を保育者が感じている。 ・日々の日課を大切にすることで、安心した生活を心がけている。 ・行事に関しても子どもの姿から無理のないものへと見直しを行っている。	A	・子どもは、家庭でも園生活の話をしてくれる。次の日の登園を楽しみにしている姿がある。
	11	子どもは、自身の興味関心の即した遊びに没頭し、深い学びを得ている。	B	・概ね出来ていると思うが、保育者の関りによっては遊びが途切れてしまうことがあった。子どもの姿から、保育者の意図を明確にする必要がある。 ・子どもの遊びが保障される環境構成に努めた。	B	・一人ひとりの子どもの発達過程や特性を理解し、興味・関心に即した保育が展開されている。 ・保育者の意図を明確にするのではなく、子どもが経験してほしい内容を保護者とも共有していただきたい。
	12	日々の記録が次の保育に活かされ、園の計画に反映されている。	C	・ドキュメンテーション記録を通して、保育の振り返りに役立った。 ・クラス内での振り返り、反省から翌月の計画を立案している。 ・日々の業務に追われ、計画が間に合わないこともあった。	B	・保育記録をもとに保育の構想が求められる。可能であれば、子どもに経験してほしいことを保育者が事前に計画し、保護者とも共有していただきたい。
資質の向上	13	保育者の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	C	・定期的な園内研修等を通した取り組みを行っている。 ・外部研修の機会も増えたことで、新たな知見を得られた。 ・日々の業務に追われ、取組みが不足していた。	B+	・保育の質向上に取り組んでいることが評価できる。日々の業務もあるが、ノンコンタクトタイム、ICT活用等で、学びの機会を産出していきたい。
	14	個々の保育者が資質向上のために研究に研鑽している。	B	・前年度から導入した自己研修費が周知され、保育者は前年度より活用していく。	B+	・園独自の取組により、個人研修が定着していることは評価できる。

	15	保育者の体罰や事故、個人情報漏洩等の不祥事根絶のために組織的に取り組んでいる。	C	・備品の紛失があり管理職の管理責任が問われた。 ・就業規則に記載されている服務規程について、全職員が周知できるようにすることが必要である。	C	・個人情報の漏洩はなかったが、管理者だけでなく、全職員が事故防止につとめる意識をもっていただきたい。
教育環境	16	安全・安心で温かい教育環境整備に努めている。	B	・保育室内は、子ども達の発達に合わせた玩具が置かれ、自分で選ぶことが出来る環境構成に努めている。 ・定期的に環境構成の見直しを行っている。	B	・概ね、一人ひとりの子どもの発達過程に即した環境が構成されている。一方、特定の保育室の環境は、安全面への配慮に疑義がある。子どもの発達と合わせて再考していただきたい。
	17	事故防止のためのガイドラインを遵守し、ヒヤリハットをはじめ事故防止を最優先に考慮した取組をしている。	C	・ヒヤリハットの記録が園全体で共有することが困難であった。 ・遊具の安全チェック表やヒヤリハット記録が活かされていない。	C	・評価者の記述は、すでに事故が生じていると捉えていただきたい。 ・園児の安全を守るためにも、日々のヒヤリハット記録を確実に言い、事故防止に努めていただきたい。
	18	特別支援教育体制の充実をするために特別教育支援コーディネーターの指名、園内員会の設置により、個別の計画に即した保育を展開している。	C	・今年度からの新たな取組みであったことから、職員全体への周知や理解が不足していた。 ・月に一度の園内委員会が、職員全体で共有できるような工夫が必要である。 ・個別の指導計画を立案する際に、相談できる体制が出来てきた。	B+	・特別支援教育体制が構築されたことは評価できる。 ・園内の周知不足や会議の在り方を再検討することで課題解決を検討していただきたい。
家庭・地域	19	開かれた園作りを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	D	・ホームページの更新が行われていないため、情報発信が不足している。 ・今年度も感染症の影響から、地域との交流はできなかった。	D	・評価者の評価を関係者評価とした。

	20	家庭・地域社会と連携、協力し、より安全で豊かな教育活動を目指している。	C	・ 個人面談では写真や動画等を活用して、家庭との連携をはかった。 ・ 地域交流は、時代の変化に伴った新しい形を検討する必要がある。	C	・ 評価者の評価を関係者評価とした
	21	幼小連携教育の視点にたった教育活動を推進するために、小学校との連携を具体的に図っている。	C	・ 小学校見学が再開できたことがとてもよかった。 ・ 情報交換会を通して、子どもの姿を伝えることが出来るが、もう少し連携が出来るとよい。	B	・ バスでの小学校見学は、友達が通う学校を知る機会であった。子どもにとってどのような経験になったかを評価していただきたい。 ・ 小学校との連携についてはさらに積極的に行っていただきたい。また、子どもだけでなく、保護者に対しても学校生活について知る機会があるとよい。 ・ 本園の保育で育った姿、保育活動での子どもの育ちをしっかりと学校に伝達していただきたい。
	22	保護者と子どもの育ちを共有するために保護者の実情に相応しい子育て支援の在り方を追求している。	B	・ おたよりやドキュメンテーション記録を通して、園の様子や子どもの育ちを発信している。 ・ 個人面談の実施や送迎の際の会話を通して、保護者と子どもの育ちを共有できるよう努めている。	B	・ おたよりは、担任によりメッセージの質に差異がある。印鑑だけでなく、日頃の様子を一言でも記述してもらえると保護者としては、安心できる。